

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1474200324
法人名	特定非営利活動法人 グループホーム グリーンハウス
事業所名	グループホーム えがお
訪問調査日	平成21年2月20日
評価確定日	平成21年3月29日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 3月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	第1474200324号
法人名	NPO法人痴呆対応型共同生活介護グリーンハウス
事業所名	グループホーム えがお
所在地	海老名市杉久保968 (電話) 046-237-2525

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年2月20日	評価確定日	平成21年3月29日

【情報提供票より】(平成 20年 12月 24日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	11人	常勤 3人	非常勤 8人	常勤換算

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 98,000 円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (2月20日 現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	7名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83歳	最低	71歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	相武台メディカルクリニック、友愛歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは既存の民家を利用しているためバリアフリー化には制約がありますが、ホーム内の随所に季節の花が飾られ、自宅に居るような落ち着いた雰囲気があります。利用者が張り合いと自信を持って生活できるように、各自それぞれの得意な分野で役割を持ち生活をしています。毎年、ホームの敬老会でその役割に対して各人に感謝状を出し、利用者に喜ばれています。年間行事予定表に基づき各種の行事が実施されていますが、特に、座間ハーモニーホールでの「民謡発表会」への出場や海老名市「かかし祭り」への出展等、全員が積極的に参加し、楽しんでます。ホーム報の「えがお便り」を年3回発行し、自治会やコミュニティセンター、近隣の地域包括支援センターや特別養護老人ホーム、家族等に配布し、好評を得ています。今年1月に、交流のある老人ホームの依頼を受け、韓国の福祉大学の学生4人の実地研修を受け入れ、通訳を交え利用者との交流を図りました。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な改善課題は、運営推進会議の実施、防災訓練時の消防署との連携、非常用の食品等の備蓄、災害対策マニュアルの整備等でした。については、昨年の外部評価実施後すぐに実施されています。については、避難訓練時に消防の立会いの下に実施されています。その他、マニュアルの整備、非常用の食品等の備蓄については実現に向けて検討しています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が評価の意義を認識し、現状の支援業務を振り返る良い機会と捉えています。外部評価実施後の定例のミーティングで報告・検討がなされ、改善課題の解決にも積極的に取り組み、素早い対応がとられています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>昨年2月に初めて開催され、ホームの方針、目的、概要、決算報告、利用者の生活ぶり、行事等の説明をし、質疑応答を行い「グループホーム えがお」を知ってもらう良い機会としました。また、第2回目の会議では、6月に発生した近隣の市の施設火災を事例にして消防署・県の査察結果を説明したところ、自治会の出席委員から自治会への声掛けについても話が出ました。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族等から不満、苦情が寄せられたことはありませんが、苦情・相談窓口を明確にし、何時でも対応できる体制を整えています。管理者や職員は普段の面会時に、意見が出やすい雰囲気づくりをし、会話の中から不満や意見を捉えるようにしています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣への散歩や買い物時には行きかう人に挨拶をしています。自治会のお祭りや敬老会、地域の「かかし祭り」に参加し地域との関わりを深めています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念のもと、日々の支援に取り組んでいます。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度始めのミーティングで理念を確認し合って共有しています。事務所、玄関ホールに理念が掲示されています。新人には入社時に説明し周知しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の神社のお祭りや敬老会に参加したり、地域の「かかし祭り」にかかし2体を職員・利用者全員で作成し、参加をし交流を深めています。毎年実施している地元の豊受神社の初詣も今年は1月1日に実施した事で地域の人々と神酒を頂くなどより初詣の雰囲気を楽しみました。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、評価を実施する意義を十分理解して自己評価に取り組んでいます。外部評価結果についてはミーティングで取り上げ検討し、見直し、改善に取り組んでいます。改善点については素早く対応しています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の外部評価では、運営推進会議の早期開催が望まれていましたが、評価後2回開催され、グループホームに対する理解を得る良い機会としています。ホームの現状や利用者の生活状況、行事等の説明、意見交換、質疑応答等が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課とは必要に応じて連絡をするようにしています。市主催の研修や講習に参加しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活ぶりや健康状態を定期的に報告をしています。また、必要に応じて随時連絡を取っています。金銭についても金銭出納簿で毎月管理し報告しています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の不満や苦情はほとんどありませんが、面会時に声掛けや面談を行い意見等を聞くように心掛けています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の他ホームとの異動はありません。非常勤職員の入退職はありますが利用者の混乱はなく自然に行われています。退職した職員が遊びに来たり、行事の時に手伝いに来てくれる等、利用者と良好な関係を築いています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に順次参加しています。受講記録を作成し、ホーム内のミーティングで2次研修を実施しています。研修費用は全額法人負担で、出勤扱いになっており研修を受けやすい体制を整えています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県央グループホーム連絡協議議会に参加し、情報交換を行うと共に、相互訪問研修会を通じ他のグループホームを訪問し、交流する機会を持っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	1週間位の体験入居をしてもらう中で、ホームの雰囲気や生活を知ってもらい、他の利用者や職員と馴染みの関係づくりが出来るよう工夫をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は日々の介護の中で、利用者の変化に対応できるよう気持ちにゆとりを持って接することに心掛けています。また、介護の方法は自分たちが一方的に決めるのではなく、利用者が決めることではないかと、相手の立場に立って考えるような支援を心掛けています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者一人ひとりが日々穏やかに過ごせるように、本人の希望、意向を大切にしています。声のトーン、表情からも気持ちを読み取るように努力しています。利用者が発した言葉の中には必ず答えがあると考えています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	職員が一丸となって情報を集め、日々のミーティングで話し合い計画を立てています。本人、家族、主治医と話し合いの場を持ち、それぞれの意見を反映した介護計画となっています。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	利用者の体調、身体機能の変化を日々観察し、現状に合うよう計画をその都度見直しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に応じて外出支援、病院送迎、理容室への送迎等を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、ホームの提携医の往診があり、必要に応じて専門医への受診にも繋がっています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者本人、家族、医師とよく話し合い、本人にとっての最善のあり方を考えています。職員はその内容、方針について情報を共有しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉かけや対応には細心の注意を払っています。発する言葉をきちんと受け止め、繰り返し確認しています。また、個人の情報、記録は事務所の鍵のかかる書庫に保管しています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿って、その日を自由に一人ひとりのペースを大切にしながら過ごせるように支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	和やかな雰囲気の中で、利用者と職員が一緒になって食事をとっています。野菜切り、配膳、盛り付けを手伝う利用者もいます。来訪日、昼食時に利用者の誕生会が催され、全員で梅酒で乾杯しながら食事を楽しんでいました。またおやつの中にはケーキが用意され、利用者と職員が一緒になって誕生日のお祝いをしていました。外食も月に一度実施され、利用者の楽しみとなっています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入れるように体制を整えています。入浴嫌いの利用者も工夫して上手に誘導しています。仲良し同士で一緒に入る利用者もいます。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が張り合いと自信を持って生活できるように、各自それぞれの担当、役割を持っています。掃除、メニュー書き、洗濯ものたたみ等、出来ることに取り組むことで、「ここにいる意味」を確認しています。地域の民謡大会への出場、かかしコンクールへの出展など全員が積極的に参加しています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に沿って、散歩へ出たり、買い物に行くことが出来るように支援しています。一階にはサンルームもあり、そこから続く庭にはガーデンチェアも置かれ、植物を観たり日光浴を楽しむことが出来るようになっていきます。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を十分承知していますが、止むを得ず玄関は施錠をしています。利用者の家族の了解や合意を得ています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、利用者全員参加の防災訓練を定期的に行っています。万が一に備え、訓練の反省点等を全員で確認しあっています。災害時には近隣の協力も得られるように働きかけています。		消防署から改善等指摘された事項に加え、非常食等防災用品の常備をするとさらによいと思われます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は概ね一人ひとりの状況が把握されています。水分は一日1000ccを目安としており、日本茶、コーヒー、紅茶、牛乳、砂糖湯、スポーツドリンクなどが用意されています。食事は給食業者の福祉メニューを採用しており、栄養のバランスがとれています。		利用者が日々完食、十分な水分摂取をしていたとしても、ケア一覧表に摂取量の記録を残すことも期待されます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングには利用者と職員が一緒に作成した季節を感じる飾りが随所に貼られています。玄関には季節の花が飾られ、リビングには縁日で買った金魚が飼われ、利用者は日々楽しみに鑑賞しています。ソファの置かれた共有スペースは広く、庭を眺めることもでき、居心地のいい空間となっています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の作りはそれぞれ差異がありますが、エアコン、作り付けのクローゼットがあります。利用者はそれぞれ使い慣れた机、椅子、テレビ等を持ち込み、棚の上には本、写真立て等も並べられています。壁にはホーム内の敬老会で出された役割分担に対する「感謝状」が全居室に貼られています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームえがお
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	海老名市杉久保968番地
記入者名 (管理者)	三浦 道子
記入日	平成21年1月19日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『えがお』の運営理念は 人権の尊重 各人が役割を持つ 家庭的な雰囲気としており、年度始めのミーティング時に議題として取り上げ運営理念を一つ一つ掘り下げて意見交換することで職員間で周知し再確認してます	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念の中の一つである「各人が役割を持つ」とは『一人一人が安心できる居場所作り』と捉えています。『えがお』では、一人一人には役割があり、その役割があることで『ここに居る事の意味』を確認して頂きその役割を役割担当表に明記することで自分の役割を確認して頂いています。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	『えがお』としての取り組み(市の行事への参加、野菜作りの様子等)を年3回発行する「えがお便り」から発信しています。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの公園への散歩、買い物、庭仕事等の中で会えば挨拶したり等しながら自然な形で地域へ溶けこもうとしています。お店の方とは、顔見知りになり『今日は さんが居ないね』などと声をかけられたりしています。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の敬老の集いへの参加、市主催のかかし祭りへの参加、自治会への入会、神社の祭りへの参加等、季節の移り変わりを感じながら皆で楽しんで参加しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			えがお便り等からグループホーム「えがお」の存在、目的を発信し続ける状況です。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価から今行っていることの見直し、確認ができるかと捉えています。評価項目から、取り組みの見直し、改善の必要性が確認できます。実際に玄関の手すりの設置、上がり台の改善、えがお便りの発行等実施、改善しています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まずは「グループホーム」とは？の説明から『えがお』設立経過、日常生活の様子、行事等の説明、H20・6に発生した障害施設の火災から『えがお』の現状を伝えてます。その中から、取り組みの助言、意見を頂きそれをミーティング時に職員に報告し周知する事で、サービス向上に活かしています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			今後は必要があれば、取り組んでいきたいと思っています。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			今後は必要があれば、取り組んでいきたいと思っています。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で気になった言動があった場合、お互いに言い合うように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	利用者家族の入所に対する不安、自責の念、葛藤等の思いをしっかりと受け止めることから始まり、受け入れる側の職員も其の思いを共有し双方が納得した形で入所が出来るように努めています(契約に至るまで1ヶ月要した例がある)		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	普段の会話の中に要望・不満等が含まれていることもある。其の思いをキャッチし、全員で共有することで運営に反映させています。『苦情・要望報告書』に記載しミーティング時に全職員に周知してる		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	日常生活の様子、体調等の変化を随時あるいは定期的に連絡・報告しています。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会等で来訪された時は、他利用者の中に一緒に入っていたことで、一対一では見えないこと等また意見が出やすいような雰囲気にも考慮しています。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ミーティング(月1回)等で意見交換しています。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	急な通院等、職員が抜ける場合等、勤務の調整を行っている。個人的に相談等がある場合は、時間を調整して対応します。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	利用者は勿論のこと職員も楽しく働いてほしい、を常に考えており、一緒に楽しめる企画等、計画実施することで離職を配慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の情報を職員が興味を持ち意欲を高めるために、目につく所に掲示しています。 県主催の介護基本講座は順番に受講しておりその内容を『研修報告書』にまとめる事そして二次研修としてミーティング時に発表してもらう事でよりレベルアップしサービス向上に取り組んでいます。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グリーンハウスと毎月第二金曜日に時間と場所を設定して交流会を開催している。会を重ねるうちお互いが打ち解けてきた和気藹々の雰囲気になっている状況です。今後は、双方が刺激あってサービスの質の向上に繋がっていきたく考えています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	介護者(従業員)の意見を聞く機会を持っています。		意見や実情を聞く機会はあるものの、具体的要望、対応策を検討することがないので、運営者側と介護者で話し合う機会を持つようにしていきます。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	実情を把握し、反映するように努めています。		具体的に向上心を持てるようなシステムを検討していきたいと思っています。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	「えがお」での日常生活と取り組み、年間計画等を細かく説明し要望等を聞き取り、納得されたら体験入所へと一つ一つの段階を踏んで信頼関係を築いています		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同上		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐ利用したいのか、今後利用したいのか、グループホームとは等、内容に沿った対応をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	『えがお』での日常生活、取り組み等説明は、勿論の事、説明だけでは、なかなか理解・納得できない部分もあることを考慮して、とりあえず中に入れて頂いて、実際に体験しての本人にとってどう感じるのか他利用者との関係作りは可能なのか等を大切にしたり関わりを工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として学ぶべきことは、沢山ある。楽しい事を計画して思いを共有したり冗談を言って笑ったり悲しい時は一緒に泣いたり職員、利用者との関係でなくお互いが支え合う仲間として日常生活を送っています		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、家族も他利用者、職員と一緒にの輪の中に入れて頂きお茶を飲みながらの会話、行事等にも参加して頂き会場設営、模擬店等の手伝いと同じ仲間として楽しんで頂いています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時等、日々の生活の中で、家族への思いを垣間見ることがある。そういった思いを聞いたり、伝えるようにしています。家族等での外出時は、着替えの準備、外出時の本人の様子を伝え安全で楽しく過ごせるように支援しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問等、積極的に受け入れたいとの思いはおいにあります。訪問したい旨の連絡を受けたら、事前に来られる事の説明をする事、当日は、職員が間に入り自然な形で関係が出来上がるのを見届けてから席を離れる等の支援をしています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気が合う方或いは話しが合う方達の席が近くなるように配慮しています。又本人に確認しお互いの居室に案内する場合があります。利用者が仲間に入りやすいような雰囲気を職員同士で作っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	骨折で入院された方で、次のサービスへの相談・情報提供をしています。住まいが変わった方の所に仲の良かった利用者を連れて何回か面会に行ったりしています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中に、本人の思い、要望等があることをふまえてキャッチするよう努めています。自分だったらどうしたいか、どうされたいかの視点で検討しています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に、本人、家族そして担当の介護支援専門員から、今までの経過等の細かい部分までの情報収集することで新しい生活にスムーズに入れるお手伝いをしています。家族には、必ず『えがお』を見学し他利用者と話して雰囲気を確認してほしい旨説明しています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子、変化、本人が発する言葉等、個人記録に記録する事で現状を把握し職員間で共有し介護計画に活かしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個人記録から解決すべき問題点、対応の仕方等が見える。それをミーティング時に対応等について意見を出し合い、介護計画に反映しています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体機能等の変化に応じて意見を出し合い、対応法を検討し介護計画の見直しを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活、状況、変化、本人の発する言葉等を毎日記録し、情報を共有その中から、問題点、改善点或いは対応法を探り介護計画に活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			現在、活用をしていない。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市社会福祉協議会にボランティア依頼し、定期的に訪問して頂いています。利用者と一緒に歌を歌ったり、散歩、外食介助等を手伝ってもらっています。消防の方には、救急法の講習依頼、消防訓練に来て頂いて指導や助言を受けています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、必要性ない		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、必要性ない		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、往診を依頼しています。往診の中で必要に応じて専門機関等への受診へ繋げる等の適切な医療が受けられる体制となっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在2名の方が治療を受けています。日々の状況変化を記録し、情報提供しています。変化に応じて相談にもなってもらっています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、必要性ない		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	骨折等されての入院の場合、階段の寸法写真等の情報を伝え、リハビリ内容に役立ててもらっています。帰れる条件等、双方で確認しあっています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	身体変化で重度化してきている場合、随時家族へ報告、あるいは実際にホームに来てもらい、本人の様子を確認してもらい今後の対応について話し合っています。その内容等をミーティング時に報告し全職員に周知しています		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	歩行状態の不安定、排泄の問題、日中の過ごし方等の変化を随時家族に報告し対応法の確認をしています。今後についても双方の意見をかかりつけ医に報告し検討や準備をしています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	日常生活パターン、食事内容、排泄等、スムーズに移行できるように情報提供しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人の訴え、発する言葉は否定しないで受け止め、言葉に耳を傾けている対応をしています。本人の言葉をしっかり受け止め「こうなんです」と繰り返し確認する対応を心がけています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>普段から会話ができる空間を大事にしています。お茶を飲みながら何気ない会話の中から本人の思い、不満等をキャッチするようにしています。何か行動に入る前には、必ず説明し納得していただいてから行動に移しています。うまく伝わらない場合は、職員がやってみて、納得してもらおう場合もあります。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎朝のコーヒータイムに、当日の予定を伝えます。その中で、どうしたいか何に参加したいかの希望を聞く対応をしています。またその日の体調、言動を観察し、その日にその方に添った一人一人のペースを大切にしています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>職員は、一人一人の好みを観察し理解しており、その方に添った支援をしています。馴染みの理容店を利用し、髪長さ等自分の意見が言えるよう、支援しています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>集団生活だからこそ、食事の時間は一番大事であると捉えています。3度の食事は、利用者、職員と全員が揃うまで待ち一緒にいただいています。野菜を切ったり、盛り付けしたり配膳と一人一人がそれぞれに出来る事に参加できる場面を支援しています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>寝る前に毎晩梅酒を飲むのを楽しみにされているその方の希望に添って支援しています。また夕食後、リビングで編み物、テレビ観賞と過ごされている方に飲み物等の提供をしゆったり過ごせる空間作りを支援しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に記録し、パターンを把握しており援助しています。誘導時は、『ちょっと手伝って下さい』等の声掛けをし本人のプライドを大事にしたかわりをしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週1回、休刊日を儲けているが、それ以外は毎日入れるような体制作りをしています。殆んどの方が毎日入浴を楽しまれています。仲の良い方同士、一緒に入浴される方もいます。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不眠であった方、AM外出で疲れていると思われる方等、状況判断しながら自室に案内し休んでもらえる援助をしています。その際ゆっくり休めるようにカーテンを閉め少し暗くするなどの工夫をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誰でもが、『ここにいる意味』の確認と『誰かのために自分で出来る事をやりたい』と願っている。その思いとここにいることの意味を確認してもらう為に、役割を持ってもらいまだ自分でも出来ることのあることの自信とその自信から生活への張りも持ってもらえる支援をしています。その役割を『役割担当表』に記載することで『ここにいる意味』を確認して頂いています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自毎月2千円の小遣いを預かりその中で外食したり、歯磨き粉、茶碗等の小物を必要に応じて好きなものを選んで購入出来るように支援しています。それを『金銭管理表』で収支を明確にすることで自分の残金がいくらあるかが確認出来ます。面会時等で家族にも『金銭管理表』で金銭の動きを確認して頂いています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	10時のコーヒータイト時に、今日の予定を説明し、買い物、調理、散歩等の中から本人の希望を確認し一人一人のその日の希望に添って散歩・買い物等への同行支援を行っています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1回の外出ディは、利用者の意見を反映して職員が計画を立て実施しています。日にち、時間、場所が決定しだい利用者が分かるようにリビングに貼り出しています。家族等からの外出の申し出に対しては、外出時等の情報を伝えること、出かける準備等の支援をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が、便箋と封筒を準備され封筒には切手、住所が記入されているものを用意されています。集中して手紙が書ける空間の設定と書き出せる声掛け等の援助をしています。家族からの電話は状況が可能ならば本人に代わり、話ができる場面の設定、利用者から家族への電話の希望に対しては、電話番号の提示或いはダイヤルを押す等の援助をし話せる		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に設定せず、家族の時間が可能ならばいつでも顔を見せてほしいと思っています。他利用者の中に一緒に入って頂き過ごしてもらったり、家族だけで過ごしたい希望があれば家族で過ごせる空間の設定をしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び職員は、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解しています。えがおでの身体拘束などありえないし身体拘束の必要性もないです。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵をかけることの弊害は、充分理解している。しかし不穏となり鍵をガチャガチャし外に出ようとする。また他利用者の居室に入り込み物の収集或いは放尿等から鍵をかけざるを得ない状況である。この現状からプライバシーの配慮と危険防止のため玄関の施錠と状況に応じた居室の施錠をしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中殆どの方が、リビングでお茶を飲みながらの会話、天気が良ければ散歩等で過ごされています。が不穏になり自室に戻る或いは落ち着かずに1階2階とウロウロされる方等がいる場合は、間をおいての声掛け自室訪問そしてドアを開け放ち移動がわかる位置におり所在の確認と様子観察をしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	置く場所を目線から外れた位置に置いたり、ふたつきの入れ物を使用したりすることで危険を防止しています。画鋲はセロテープを上から貼り落下防止に努めています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「段差につまずいて転びそうになった」、「薬を渡すのを忘れた」等のヒヤリ或いはハッとした事を『ヒヤリ・ハット用紙』に記載しミーティング時に報告し職員全員で事実を周知し防止策を検討し事故防止に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	「事故或いは急病が発生した場合について」のマニュアルを作成し対応の確認が出来るようにしています。消防署から講師を依頼して応急手当の指導を受講しています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者が避難できる方法を身につけるための方法として、年に4回(5、8、11、2月)に消防避難訓練を繰り返し実施しています。実施後は、必ず感じた事、反省点等を全員で話し合い確認しあい『報告書』にまとめ次回に活かしています。11月に消火、通報、避難訓練を消防署の方が立会いの元実施しています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ADL或いは体調の変化等は、随時家族に説明し今後予想されるリスクから対応法について双方が納得した方法を確認しあっています。実際家族に来てもらい現状を確認してもらった事例もあります。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日『利用者個人記録』に日々の様子、体調変化等を記録しています。その記録から、情報を共有し、対応を検討し介護計画に繋げています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	『薬服薬管理表』の中に使用している薬の目的や副作用等を明記しています。定期的受診時の変化、薬の変更等は、日誌に記録し全職員に周知しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	チェック表の中に便の欄を設け出てる事を日々確認できる体制作りは出来ています。落ち着きがない、食欲がない、イライラしていないか、水分は摂れているか等、日々利用者の様子を観察し記録しています。毎日のラジオ体操と散歩、風船バレー等、身体を動かす誰でもが参加できる場面を作っています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き或いは口腔ケアの援助をしています。洗面所の場所が分からない方、歯を磨く行為が理解できない方等一人一人の力に応じた支援をしています。義歯の汚れのひどい方は、週2回ポリドント等の洗浄漂白を支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量にバラツキのある方は、毎食の摂取量を記録しその記録から原因を探る等の分析をしています。また尿量が少ない場合は、水分量をチェックし水分が摂れる工夫(砂糖湯、ポカリ等の本人が好む物口当たりのいいもの)をしています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日朝、昼、夕の3回、手すり・ドアノブを次亜塩素酸ナトリウムでの消毒 外出後の手洗い、うがいの励行 毎食後の歯磨き 週2回の寝具類の乾燥と週1回のリネン交換で感染症に対する予防をしています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・生ものは必ず火を通すことを原則としています。 ・調理用具の使用後は良く乾燥して収納してる。週1回以上は、熱湯消毒或いは次亜塩素酸ナトリウムで消毒しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	『えがお』にある庭を利用者、職員と一緒に草をとったり落ち葉を掃いたりときれいにしそこにきゅうり、なす、とまと等の夏野菜を植え、或いはチューリップの球根を植えりすることで季節を肌と味で感じ楽しんでいきます。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を飾ったり、季節に添った図案を用意し、色ぬりを楽しみ、それをリビングの壁に貼ったりすることで季節を感じてもらっています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階2階の共用空間(リビング)を工夫しながら、編み物をする人、塗り絵をする人、会話を楽しむ方等々、其の方にそった思い思いに過ごせる居場所作りを工夫をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具、筆筒、ソファ等の持ち込み、寝る前は、本を読む習慣の方は、本を沢山持ち込まれたり、壁には家族との写真を貼ったりと見慣れたものに囲まれたその人らしい居室となっています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の各居室にエアコンを設置しており、一人一人に合った温度調整を行っています。皆が集まるリビングは、室温が高くなる為ために換気と室温調整し状況に応じて快適に過ごせるように対応しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のある所には、目立つ色のテーピングをしたり手すりの設置することで安全性と本人の機能を大事にした関わりをしています。危険箇所には、『危険、さわるな』と表示し危険を回避しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	其の日の利用者の状況を判断し、本人の出来るところを見極め、どこに手を出すかを職員間で情報を密にし本人に混乱や不安を与えない対応を心がけています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に草花や野菜を植え、草取り、水やり、収穫と、一人一人が出来事或いは得意な事を見極め其の方にそって活動できるように職員と一緒に楽しんでいます。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

運営方針にもあるそれぞれが役割を持つことで『ここにいてもいい』という居場所作り、誰かのために役に立っているという自信を持ってもらうことを取